様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科研費 KAKENHI

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２７ 年　 ６ 月 １７ 日現在

機関番号：１２３０１
研究種目：挑戦的萌芽研究
研究期間：2011～2014
課題番号：２３６５９９９８

研究課題名（和文）途上国で家族が行う看護ケアと看護師の役割

研究課題名（英文）Nursing care provided by the family and role of the nurse in developing countries

研究代表者
森　淑江（Mori, Yoshie）

群馬大学・保健学研究科・教授

研究者番号：９０１５０８４６

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,700,000円

研究成果の概要（和文）：　途上国の家族と看護師がどのような看護ケアを分担しているのかを明らかにし，国際看護協力のあり方に示唆を与えることを目的として研究を行った。方法は青年海外協力隊員の報告書の分析と面接調査，中国とラオスでの質問紙調査であった。その結果，国によっては看護師が日本と同数程度勤務していても日常生活援助は家族が行い，看護師はそれ以外の診療の補助技術を主に行っていた。出産に関しては家族が産痛緩和ケア，心理的援助を行い，助産師は分娩の経過診断，分娩介助を行っていることが明らかになった。日本人看護師が途上国で国際看護協力を行う際，及び外国人看護師受入れの際の留意点が示唆された。

研究成果の概要（英文）：This study was aimed at clarifying the role of family and interaction of nurses with patients in developing countries and getting suggestions of international cooperation from Japanese nurses. Three methods were adapted: Analysis of activity reports that were written by Japanese volunteers, Semi-structured interviews of those volunteers, and Conducting questionnaires in China and Laos.
Families provided support for daily living such as bed-making, cleaning and clothing, position change, meal assistance, etc. Nurses mainly performed medical assistance such as dressing, injection, and vaccination. In the field of labor and delivery, the family gave care for alleviating pain and psychological support, while midwife did assessment of delivery stage and assisting delivery. In Japan it is understood that the nurse supports the patient in his/her daily living. The concept of nursing too may be inherently different from Japan and the importance of the family can be culturally independent.

研究分野：国際看護学

キーワード：看護　途上国　家族　看護師　役割　国際研究者交流　アジア　ラオス

１．研究開始当初の背景

国際協力に従事してきた看護職者は，派遣された途上国で日本の看護基礎教育で習い実施してきた看護が現地の実情に合わずに受け入れられないという経験をしばしばしてきている。

研究者らの先行研究では，途上国には日本と異なる看護技術が存在する（例えば，「頭髪の害虫駆除」「逃院」「大量虐殺兵器使用時の対処」等）ことが明らかとなった。日本では患者の日常生活援助は重視されており，厚生労働省の示す新人看護職員研修到達目標に示された看護技術全13領域のうち，少なくとも5領域は日常生活援助に関係する技術であり，この技術を修得することが求められている。

ところが研究者らの先行研究によると，途上国では看護師が診療の補助に関わる技術を中心に行い，日常生活援助に関しては家族が重要な役割を担っているのではないかと推測される。これは必ずしも医療従事者の不足に起因するためとは限らない。例えばカンボジアのクメール語では看護を示す言葉は家族がする世話を意味しており，そもそも看護の概念が異なっている。また家族の占める位置の大きさは文化圏に違いがあり，看護師の役割自体が日本と異なることによるものかもしれないからである。日本は戦後の連合国軍総司令部（GHQ）の強力な指導の影響で，戦前に看護師が行っていた看護のあり方が大きく変えられ，現在ではアメリカの看護理論や看護技術が国内に広く普及している。アメリカの看護理論が日常の看護の拠り所となっている日本の看護職者に対して，それとは異なる看護が存在し，患者の家族が一部を担い，看護師と家族とが分担することによって成立している看護があるということを明らかにすることは，日本と異なる国での国際看護協力活動のあり方に示唆を与えるのではないかと考えられた。

２．研究の目的

途上国の家族と看護師が果たす役割に着目し，それぞれがどのような看護ケア（特に日常生活援助）を分担しているのかを明らかにし，日本の看護職者による日本と異なる国での国際看護協力のあり方に示唆を与えることを研究目的とした。

３．研究の方法

関連資料の収集に加えて，次の３つの方法によりデータを収集し，分析を行った。

1) これまでに雑誌等に公表された開発途上国の看護に関する文献の検討および国際看護協力活動に関する報告書類の分析を行った。報告書は国際協力機構青年海外協力隊看護職隊員が作成したもの収集した。国際協力機構青年海外協力隊員は国際看護協力を行う最大多数の集団であり，報告書が国民に広く公開されており入手可能であることから，アジア諸国 10 か国（バングラデシュ，中国，インドネシア，ラオス，モンゴル，ネパール，パキスタン，スリランカ，ウズベキスタン，ベトナム）の 140 名の隊員が作成した 678 冊の報告書を分析対象とした。

各報告書から患者の家族が医療機関内で行っている活動，および看護師が患者のために行っていることと行っていないことに関する記述部分を抽出し，患者と家族の提供するケアについて分析を行った。

2) 途上国で家族や看護師が患者のために行っている看護ケアを知る機会のあり，日本国内に在住する日本人看護職者や医療機関での国際看護協力を経験している，または過去に実施経験のある日本人看護職者に対して半構成的面接調査を行った。対象者は雪だるま式抽出方法で得た。対象者 7 名のうち 6 名は帰国した青年海外協力隊員であった。

3) 途上国における現地調査として，中国で質問紙を用いた看護師と患者に対する予備調査を，ラオスで看護師に対する構成的質問紙調査を行った。
質問項目は厚生労働省の「新人看護職員の看護実践能力の向上に関する検討委員会」報告書に記載された 13 の大項目と 69 の小項目から成る「看護実践における技術的側面（看護技術）」の項目を参考に試作し，現地調査の質問紙案とした。これを中国語に翻訳し，中国の一病院で 81 名の看護師及び 48 名の患者が回答した。ラオスでは 97 名から回答を得たが，記載の不備により 60 名の回答を分析対象とした。

以上の調査にあたっては群馬大学医学部疫学倫理審査委員会及び埼玉県立大学倫理審査委員会、研究協力施設からの研究許可を得た。

４．研究成果

活動報告書の分析では，いずれの国でも「家族が日常生活の援助を行い，看護師は注射や点滴などの業務が主である」，「入院中は家族が 24 時間付き添う」，「記録はほとんど書かない，活用されていない」などの現状が明らかになった。国によっては看護師が日本と同数程度勤務していても日常生活援助であるベッドメーキング，清潔ケア，更衣，体位変換，移送，食事介助などについては家族が行い，看護師はそれ以外の創傷ケア，注射，予防接種などを主に行っていた。

出産に関しては家族が産痛緩和ケア，心理的援助を行い，助産師は分娩の経過診断，分娩介助を行っていることが明らかになった。

中国及びラオスでの現地調査でも家族が日常生活援助を担い，看護師が診療の補助に関わる技術を行っていた。ラオスで 25%以上の看護師が「家族が行うケア」と回答した項目は，食事援助，排泄援助，活動・休息援助，清潔・衣生活援助，苦痛の緩和・安楽確保の技術であり，これらはすべて日本の看護師が通常提供している日常生活援助技術であった。一方 80%以上の看護師が「看護師が行うケア」と回答した項目は，環境調整，呼吸・循環を整える，創傷管理，与薬，救命救急処置，症状・生体機能管理，感染防止，安全確保，であった。ラオスにおいては，看護師は診療の補助に関する技術を中心に行い，食事，排泄，清潔の援助に関しては家族が役割を担っているのではないかと推測された。

報告書の分析や国際協力活動経験者などへの面接調査からは家族が担うケアについて宗教の影響が推測された。イスラム教が主流であるインドネシアでは，女性患者には女性の医療者が関わることが基本であり，看護師不足だけでなく習慣，宗教，経済などの文化的要因が影響していると考えられた。

これまでに多くの日本人看護師が途上国で国際看護協力を行ってきた。その際，途上国で看護師が投薬や処置などの診療の補助を中心に行い，家族に日常生活援助に関する看護ケアが任されている現状を変えようとしては挫折してきたが，本研究結果はこのような現状に新しい視点と示唆を与えるものとなった。

また経済協力の一環として，途上国であるインドネシア，フィリピン，ベトナムの看護師が日本で看護師資格を取得して働く機会が増加する中で，それら看護師を受け入れる日本側の病院や看護職員は日本と途上国では看護師の担う役割が異なる場合があることを念頭に置くこと，及び外国人看護師の受入れに際してはこの点を理解して指導することの重要性が示唆された。

５．主な発表論文等
（研究代表者，研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　0件）

〔学会発表〕（計　6件）

1) 高田（齋藤）恵子，辻村弘美，李孟蓉，田中和子，山田杏子，森淑江：途上国で家族が行うケアと看護師の役割－ラオスで活動した青年海外協力隊員の報告書の分析. 第 26 回日本国際保健医療学会学術大会，東京大学本郷キャンパス（東京都文京区），2011.11.6

2) 李孟蓉, 齋藤恵子, 辻村弘美, 山田杏子，森淑江：途上国で家族が行うケアと看護師の役割－インドネシアで活動した青年海外協力隊員の報告書の分析－. 第 27 回日本国際保健医療学会学術大会，岡山大学津島キャンパス（岡山県岡山市），2012.11.4

3) Yoshie Mori，Hiromi Tsujimura，Keiko Saito，Moyo Ri，Kyoko Yamada，Kazuko Tanaka：Nursing Care Provided by the Family and the Role of the Nurse in Asian Countries. ICN 25th Quadrennial Congress，Melbourne(Australia)，May 22，2013

4) 齋藤恵子，辻村弘美，李孟蓉，山田杏子，田中和子，森淑江：途上国で家族が行うケアと看護師の役割－ベトナムで活動した青年海外協力隊員の活動報告書の分析－．第 28 回日本国際保健医療学会学術大会，名桜大学（沖縄県名護市），2013.11.3

5) 辻村弘美，森淑江，李孟蓉，齋藤恵子，山田杏子，田中和子：途上国で家族が行うケアと看護師の役割－中国で活動した青年海外協力隊員の報告書の分析－．第 28 回日本国際保健医療学会学術大会，名桜大学（沖縄県名護市），2013.11.3

6) 齋藤恵子，李孟蓉，辻村弘美，山田杏子，田中和子，森淑江：途上国で家族が行う看護ケアと看護師の役割－ラオス人民民主共和国の看護師への自記式質問紙調査の分析－．第 17 回国際看護研究会学術集会，キャンパスプラザ京都（京都府京都市），2014.9.27

〔図書〕（計　0　件）

〔産業財産権〕
○出願状況（計　0　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計　0　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

なし

６．研究組織

(1)研究代表者

森　淑江（Mori，Yoshie）
群馬大学・大学院保健学研究科・教授
研究者番号：90150846

(2)研究分担者

1)辻村　弘美（Tsujimura，Hiromi）
群馬大学・大学院保健学研究科・講師
研究者番号： 70375541

2)齋藤　恵子（Saito，Keiko）
埼玉県立大学・保健医療福祉学部・講師
研究者番号： 50369371

3)李　孟蓉（Ri，Moyo）
高崎健康福祉大学・保健医療学部・講師
研究者番号： 60412988

(3)連携研究者

なし　（　　　）

研究者番号：